

## 第 38 回歴史地震研究会（オンライン苦小牧大会）のお知らせ（第 3 報）

第 38 回歴史地震研究会は、研究発表会と総会を以下の通りオンライン（Zoom）で開催します。懇親会と巡検は中止します。なお、9 月 4 日（土）の公開講演会は予定通り苦小牧市で開催し、会員の皆さんには収録ビデオを後日ご覧いただけるようにする予定です。

### 1. 日程および参加費

2021 年 9 月 2 日（木）～3 日（金）の 2 日間

2 日（木） 9:30～17:00：研究発表会

3 日（金） 9:30～17:30：研究発表会・総会

オンラインでの開催につき、大会参加費は無料です。

### 2. 研究会参加の申し込み等

研究発表会はオンラインでの開催となりましたので、事前の参加申し込みをお願いします。参加申し込みは **8 月 29 日（日）** までに、以下の URL よりお申し込みください。なお、参加は会員に限定させていただきます。ご発表を申し込まれた方、およびすでに参加登録をされた方については、あらためてお申し込みいただく必要はございません。

<https://forms.gle/uFMXYc2xqTdvemPk6/>

（ご参加に当たってのご注意）

- ▶ 本大会は、研究発表会、総会とも Zoom を利用します。ウェブへの接続環境は、あらかじめ各自でご準備ください。
- ▶ 参加のお申し込みをいただきました方には、Zoom の接続情報（発表会視聴用の ID、パスワード）を別途お知らせいたします。

### 3. 発表について

口頭発表・ポスター発表には Zoom を利用します。

#### 3-1. 口頭発表

Zoom の画面共有機能でスライド等を表示し、発表者が口頭（マイク）で説明します。

#### 3-2. ポスター発表

各ポスターを事前に大会ホームページに掲載します。ポスターは PDF ファイルで作成してください。ポスターの形式は任意とします。1 枚ものでも複数ページのファイル（例：パワーポイントのファイルを PDF 化したもの）でも結構です。容量は 10MB 以下とします。

発表者・参加者の意見交換等は、コアタイムに個々のポスターに対して開設する Zoom ミーティングのブレイクアウトルームを利用いただきます。

#### 4. 発表ファイルのアップロードについて

・ポスター発表の方、口頭発表の方で Zoom での発表に不安のある方（バックアップとして発表ファイルを行事委員会に預けたい方を含む）は、別途お知らせする URL に発表ファイル（ポスター、発表スライド）をアップロードしてください。なお、アップロードしていただいたファイルは、研究会終了後に削除いたします。

・ファイル名には、発表番号と名前を入れてください

（例：0-xx\_武者.pdf, P-xx\_田山.pdf, ※xx は数字）。

・参加者のみが閲覧できる Web サイトに会期中のみアップロードします。

・PDF のプロパティとして編集禁止、印刷禁止など設定していただいても結構です。

・行事委員側で編集禁止、印刷禁止を設定します。

➤ ファイルの種類：PDF（口頭発表の方のスライドは ppt または pptx ファイルでも可）

➤ 期限：8月29日（日）必着といたします。

第 38 回歴史地震研究会（オンライン苫小牧大会）プログラム

9月2日（木）

研究発表会（第1日） 開場 9時00分

口頭発表セッションⅠ 東北・北海道の地震と諸現象（1） 9：30～10：30

O-01 林 豊

1780年ウルップ島地震による日本への津波の影響

O-02 佐々木淳

板碑造立への享徳地震の影響

O-03 小田桐（白石）睦弥・小田島智恵・松橋香澄

岩手出身の先人による災害への対応について－後藤新平・山奈宗真を中心に－

O-04 蝦名裕一

1454年享徳地震津波と1611年慶長奥州地震津波の比較分析

休憩<15分>

口頭発表セッションⅡ 東北・北海道の地震と諸現象（2） 10：45～11：45

O-05 松岡祐也

農林省水産局による昭和三陸地震津波の調査

O-06 水田敏彦・鏡味洋史

弘戸小学校編『男鹿地震記』に記された1939年男鹿地震の震災の状況と対応

O-07 平川一臣

日高・胆振・噴火湾沿岸の古津波

O-08 高清水康博・西村裕一・岩城昂平・千葉 崇・石澤堯史

胆振東部太平洋岸における過去3000年の津波履歴

昼休み<1時間15分>

口頭発表セッションⅢ 歴史地震全般・関東地方の地震と諸現象（1） 13：00～14：15

O-09 木戸崇之

災害アーカイブの可能性と継続への障壁

O-10 山中佳子・宇佐美龍夫

歴史地震総表のWEB検索システムの構築

O-11 中垣達也・谷岡勇市郎

1929年Grand Banks海底地すべり津波の波源解析

O-12 吉岡誠也

安政江戸地震前後の水戸の地震活動

O-13 武村雅之

関東大震災と東京一寺院移転の実態と現状

休憩<15分>

口頭発表セッションIV 歴史地震全般・関東地方の地震と諸現象 (2) 14:30~15:45

O-14 室谷智子

国立科学博物館が所蔵する関東大震災の油絵・写真

O-15 阪本真由美

関東大震災における外国人の広域避難について

O-16 榎本祐嗣・山辺典昭・杉浦繁貴・近藤 斎

大正関東大地震における同時多発出火原因についての一考察

O-17 服部健太郎

1923年関東地震による伊豆大島の被害を記した資料

O-18 中臺裕美・谷岡勇市郎

1923年大正関東地震の津波波源解析

休憩<15分>

ポスターセッション コアタイム 16:00~17:00

9月3日(金)

研究発表会(第2日) 開場9時00分

口頭発表セッションV 西日本・北陸の地震と諸現象 (1) 9:30~10:30

O-19 松崎伸一・平井義人・日名子健二

1596年豊後地震における臼杵の津波高

O-20 松浦律子・中村 操

日向灘周辺に発生した近世以降の被害地震

O-21 水野 嶺・榎原雅治・吉岡誠也

天保期に西日本の広範囲で感知された地震について

O-22 西山昭仁・原田智也

14世紀前期の京都における地震活動の検討

休憩<15分>

口頭発表セッションVI 西日本・北陸の地震と諸現象 (2) ほか 10:45~11:45

O-23 濱野未来

地震史料中の慣用表現について—文禄伏見地震史料を中心に—

O-24 鏡味洋史・水田敏彦

1927年北丹後地震直後の踏査報告の足跡をたどって

O-25 石辺岳男・五島朋子・中村亮一・片桐昭彦・室谷智子・佐竹健治

気象災害であった可能性が高い1092年(寛治六年八月三日)の越後の大波

O-26 千葉 崇・西村裕一

秋田県沿岸の砂防林において認められた1983年日本海中部地震津波による津波堆積物

昼休み<1時間 15分>

総会 13:00~14:00

ポスターセッション コアタイム 14:15~15:15

休憩<15分>

口頭発表セッションVII 東南海・南海の地震と諸現象 (1) 15:30~16:30

O-27 大邑潤三・盆野行輝・加納靖之

新たな史料で判明した1854年安政東海地震における甲府盆地の被害と震度

O-28 都司嘉宣

安政南海地震(1854)本震の4時間後に生じた津波を伴った余震について

O-29 今井健太郎・楠本 聡・堀 高峰・高橋成実・古村孝志

1854年安政東海地震の波源断層モデル再評価

O-30 谷岡勇市郎・宇野花蓮

1854年安政東海地震と1944年東南海地震の破壊域比較

休憩<15分>

口頭発表セッションVIII 東南海・南海の地震と諸現象 (2) 16:45~17:30

O-31 楠本 聡・今井健太郎・堀 高峰・山本阿子・菅原大助

高知県蟹ヶ池における津波堆積物の再現解析—宝永地震の事例と今後の課題—

O-32 中野祥房・稲住孝富・今井健太郎・堀 高峰

ヒアリングに基づく昭和東南海・南海地震による和歌山沿岸の津波被害

O-33 都築充雄

三河地震（1945）における三河地方の寺院被害状況の整理

ポスター発表

P-01 石瀬素子・中村亮一・村岸 純・酒井慎一・平田 直・宇佐美龍夫

1855年安政江戸地震の震度データベースの構築（2）—宇佐美（1995）の詳細震度分布図のデジタルアーカイブ—

P-02 荒井賢一・篠田海遥・徳田光希・堀井陽澄

日記から読み取れる埼玉県所沢市の1923年関東地震翌日以降の様子

P-03 水野 嶺

年代記にみる中世後期における南九州の地震

P-04 平井 敬

大沢家本願寺関係文書に記された安政東海・南海地震

P-05 久永哲也・内田篤貴・椋代大暉・佐々木哲朗・小川典芳・浦谷裕明・武村雅之・都築充雄

東海地域における南海トラフ沿いの歴史地震津波に関する現地調査結果について（その3）

P-06 行谷佑一・今井健太郎

安政南海地震による高知県内の被害率と浸水深との関係

P-07 千葉 崇・西村裕一

北海道十勝沿岸域における過去1000年間の地殻変動の推定

P-08 高清水康博・西村裕一・岩城昂平・千葉 崇

勇払低地の17世紀津波堆積物の特徴

P-09 西村裕一・千葉 崇

胆振東部地震（2018年9月6日）に伴う噴砂丘と砂脈の形成と保存